

選考試験 専門記述式問題（文化財専門職員（埋蔵））

問1 文化財（埋蔵文化財に限定しない）を活用した地域振興（まちづくり）の可能性と課題について、論述せよ。

問2 遺跡における、歴史的建造物（集落の竪穴建物、寺院・城郭の建物、古墳の墳丘等）の復元について、具体的な事例を挙げて、その課題を論述せよ。

問3 以下の（A）～（C）の文章を読み、それぞれの論点を踏まえて、考古学における編年の役割について、あなたの考えを論述せよ。

（A）

考古学的研究において最も重要にして、かつほとんど最終の目的とせらるるものは、その資料の時代決定（dating, Zeitbestimmung）なり。さきに述べたる層位的方法、型式学的方法のごときも、畢竟、この最終目的のために使用せらるるものにほかならず。考古学的研究方法の最終の目的は資料の時代決定にあれど、考古学的研究方法による一々の学術的目的は時代決定にありというにはあらず。おのおのの学術に従って各別種の目的を有すべきは論をまたず。

（浜田耕作 2016（初出 1922）『通論考古学』岩波書店）

（B）

明治この方、発掘されてきた遺物というものはたいへんな量である。（中略）

妙なロジックと思われるだろうが、われわれ日本考古学の正道は、疑いもなくそれらの遺物に時間的な位置を与えることにあった。すくなくも昭和初年から今に至る学問的基礎づくりとしては、まさに当を得た操作だといわねばならない。

しかし、現在は関東・東北を先導に、大別にも細別にも、土器の形式編年はほとんど完備して、しかも、ほぼ全国各地にそれは応用されている。（中略）

いま編年作業がほぼ完了に近く、古代史家やその他の思想家たちが競って考古学の成果を利用して古代文化の編成に向う機運に遭逢して、むろん事実を資料としてあつかった考古学者がやればいちばんいいにきまっているのに、一向にそうした冒険を試みようとならないのは、長い習慣よりくる勇気の喪失である。

（藤森栄一 1969「いつまで編年をやるか」『考古学ジャーナルNo.35』ニューサイエンス社）

（C）

いつまで編年をやるか、と問われれば、考古学の続く限り、と答えよう。縦に横に編年表をますます充実させながら、考古学本来の目標をはたしてゆくのだ。

弥生式土器の編年作業は各地で進行しつつある。しかし、その原理は決して共通なものではない。（中略）

北九州の弥生式土器研究についての感想は2つある。第一は、地方色の追求にあまり重点がおかれていないとおもえることである。前期の土器に、遠賀川の東西での差異があることは古くから指摘されている。しかし、畿内における状況からすれば、北九州の中期弥生式土器にも小地域差が存在する可能性が強い。（中略）

第二の感想は、土器の大別・細別についての基本方針がかたまっていないことである。（中略）細別化の一方ではまとまりも必要である。生物学の綱・目・科・属・種の分類で、属と比較するのは属、種は種と比較するのであるのと同様、原ノ辻上層式に対比して論ずるべきは須玖Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ式、狐塚Ⅰ・Ⅱ式のいずれでもなく、それぞれをまとめた須玖式であり、西新式であると思うがいかがであろう。

（佐原真 1972「弥生時代（下）」『考古学ジャーナルNo.74』ニューサイエンス社）

問4 香川県内の文化財（未指定含む）の特徴について、香川県の歴史的・地域的特性等に応じたテーマを設定して論述せよ。（主な香川県内の国指定文化財を以下に示す。）

（参考）主な香川県内の国指定文化財

- 建造物 神谷神社本殿（国宝、鎌倉時代）、本山寺本堂（国宝、鎌倉時代）、丸亀城天守（江戸時代）、旧金毘羅大芝居（江戸時代）、小比賀家住宅（江戸時代）、旧善通寺偕行社（明治時代）、豊稔池堰堤（昭和時代）、香川県庁舎旧本館及び東館（昭和時代）
- 絵画 絹本著色両界曼荼羅図（極楽寺、鎌倉時代）、絹本著色智証大師像（金倉寺、鎌倉時代）、絹本著色志度寺縁起（志度寺、鎌倉～南北朝時代）、紙本墨画蘇鉄図（妙法寺、江戸時代、与謝蕪村筆）
- 彫刻 乾漆聖観音坐像（願興寺、奈良時代）、木造隨身立像（神谷神社、鎌倉時代）、木造狛犬（水主神社、平安時代）、木造四天王立像（鷲峰寺、鎌倉時代）
- 工芸品 金銅錫杖頭（善通寺、唐時代）、金銅五鈷鈴（弥谷寺、唐時代）、木造頓證寺勅額（白峯寺、室町時代）
- 書跡・典籍 藤原佐理筆詩懷紙（国宝、平安時代）、肥前国風土記（国宝、個人、平安時代）、一字一仏法華経序品（国宝、善通寺、平安時代）
- 古文書 東大寺写経文書（個人、奈良時代）、善通寺伽藍并寺領絵図（善通寺、鎌倉時代）、弘福寺領讃岐国山田郡田図（個人、平安時代）
- 考古資料 割竹形石棺 香川県善通寺磨臼山古墳出土（善通寺市、古墳時代）
- 歴史資料 久米通賢関係資料（（公財）鎌田共済会、江戸時代）
- 無形文化財 蒟醬（きんま）
- 有形民俗文化財 肥土山の舞台、池田の棧敷、中山の舞台、瀬戸内海及び周辺地域の漁撈用具、瀬戸内海の船図及び船大工用具、牟礼・庵治の石工用具、金毘羅庶民信仰資料
- 無形民俗文化財 綾子踊、滝宮の念仏踊、生里のモモチ
- 史跡 讃岐国分寺跡（特別史跡）、紫雲出山遺跡、石清尾山古墳群、津田古墳群、快天山古墳、富田茶臼山古墳、有岡古墳群、大野原古墳群、喜兵衛島製塩遺跡、屋島、城山、讃岐国府跡、讃岐国分尼寺跡、中寺廃寺跡、宗吉瓦窯跡、府中・山内瓦窯跡、二ノ宮窯跡、天霧城跡、引田城跡、丸亀城跡、高松城跡、高松藩主松平家墓所
- 名勝 栗林公園（特別名勝）、神懸山（寒霞溪）、象頭山、琴弾公園、満濃池
- 天然記念物 宝生院のシンパク（特別天然記念物）、琴平町の大センダン、天川神社社叢、烏骨鶏、屋島、鹿浦越のランプロファイヤ岩脈
- 伝統的建造物群保存地区 丸亀市塩飽本島町笠島